

重力音波モードから内部重力波モードへの遷移周期帯付近の微気圧変動パワースペクトル
Power spectral density distribution of micro-barometric variation around the transition
region between acoustic mode and internal mode gravity waves

*家森 俊彦¹、小田木 洋子²、青山 忠司³、佐納 康治²、田中 良和³

*Toshihiko Iyemori¹, Yoko Odagi², Tadashi Aoyama³, Yasuharu Sano², Yoshikazu Tanaka³

1.京都大学大学院理学研究科付属地磁気世界資料解析センター、2.朝日大学、3.京都大学大学院理学研究科
1.Data Analysis Center for Geomagnetism and Space Magnetism, Graduate School of Science, Kyoto
University, 2.Asahi University, 3.Graduate School of Science, Kyoto University

地震や火山噴火、竜巻などの際に、地球表面と超高層の間でしばしば200秒から280秒程度の間には3種類の共鳴周期を持つ音波共鳴現象が観測されてきた。(Kanamori and Mori, 1992; Iyemori et al., 2005; Saito et al., 2011; Nishioka et al., 2013) これら周期は、Brunt-Väisälä周期より短く重力音波のカットオフ周期に近い。一方、地上での微気圧変動では、7分程度から10分、あるいは20分程度のゆっくりした内部重力波モードの変動がしばしば観測される。重力音波モードから内部重力波モードへの遷移周期帯付近の微気圧変動パワースペクトル密度分布がどのようになっているのかを、国内数ヶ所およびタイに設置した微気圧観測装置データを基に統計的に調べた結果を示す。

キーワード：微気圧変動、重力音波、内部重力波、パワースペクトル密度

Keywords: Micro-barometric variation, acoustic gravity waves, internal gravity waves, power spectral density